

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し職員が毎日意識するようにステーションに掲示をしている。	理念についてはホーム内に掲示し共有と実践に努めている。職員の意見を吸い上げ施設長が作成した事業計画に掲げた「利用者個々の役割分担をケアプランに落とす」「毎月のレクリエーションのテーマ」等を毎月チェック、フォローして支援内容の充実に繋げている。家族に対しては入居時に理念に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行き地域の方とお話をしたり、交流を持っている。新型コロナウイルスの感染状況を見て買い物に行っている。地域行事は中止となっているが文化祭に作品を提出する予定。	開設以来自治会費を収め地域の一員として活動している。新型コロナ禍が続く地域内の行事の自粛状態が続いているが、今年度は諏訪大社の御柱祭大祭の年に当たり隣接する津島神社の建御柱の際には招待を受け見学に出掛け楽しい時間を過ごしたという。また、地域の文化祭の開催予定があり「トイレットペーパーの芯と紙粘土を用いた」作品を出品する予定である。合わせて地域で行われる年末の「しめ縄」作りにも参加を予定している。小学校、中学校との交流活動や各種ボランティアの受け入れは新型コロナ収束後に再開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年4回、運営連絡協議会を年2回開催しており、地域、行政、町、医療機関より意見を参考にして、サービス向上に活かしている。	新型コロナの感染拡大の影響を受け昨年までは書面開催が続いていたが、今年度に入り奇数月の月末に感染対策に配慮し隣接の複合施設の会議室にて開催している。諏訪広域連合介護保険課職員、町役場健康福祉課職員、地域住民代表、高木区区長、第三者委員、町介護相談員、ホーム関係者の出席で行い、利用状況、職員状況、事故ヒヤリハットの対応、災害時の避難対応、地域との関わり等について話し合いサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行政を訪問し、担当者と意見交換をすることで地域のニーズ把握に努めている。	月1回は役場を訪問し待機者状況についての意見交換、認知症で困っている方の相談を頂き、希望があれば訪問している。法人が在宅介護支援センターの委託を受けており50～60軒の独居高齢者を担当しており定期的に調査と打ち合わせをしている。介護相談員の訪問は感染状況に合わせて行われ、職員と連携の上、利用者で交流の場を持っている。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応して行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに身体拘束委員会を開催し参加をしている。法人内で研修を行い職員も知識向上を図っている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠されているが、内玄関は開錠されている。帰宅願望の強い利用者があるが、職員の時間に合わせ自宅の様子を見に出掛けたり話をするなどで対応している。また、一日が退屈しないよう工夫をし日々の生活を送っている。3ヶに1回、身体拘束適正化委員会を開催し拘束に対する意識を高め、拘束のない支援に繋げている。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月ごとに虐待防止委員会を開催し参加をしている。法人内で研修を行い職員も知識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部からの研修案内については職員に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等に関しては入居前にご家族に内容を説明し、ご家族に意向、不明点を伺い、文書で提示をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のつぶやき、ご家族様からの要望や希望については会議で検討し、対策を立案している。	新型コロナ禍が続き家族の面会はウェブ面会と玄関でのビニールシートを挟んでの短時間の面会が続いている。そのような中、今年度の事業計画の中で「2ヶ月に1回利用者から家族宛に、お手紙をお出しすること」を目標の一つとして取り組んでいる。また、かかりつけ医受診の際には家族に付き添っていただき、共に過ごす時間を作るよう進めている。合わせて利用者のホームでの様子は毎月発行するお便り「ほのぼの便り」と担当職員からの手書きの便りでお知らせしている。年末には家族と共に居室の掃除を企画しており、師走を感じて頂くように予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議時や業務の中の申し送り時に職員の意見や要望に関しては検討をしている。面接も定期的実施をしている。	月1回、月末に職員会議を行い、利用者の状況や対応、事業計画の進捗状況の確認、事故・ヒヤリハットの対応、ハウスマネージャー会議の報告、意見交換等を行い業務の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、年1回具体的な個人目標を設定しハウスマネージャーと目標について話し合い、チャレンジシートを用い自己評価を行い、施設長の評価を受けている。また、年1回職員のストレスチェックが行われており、メンタルケアの面でも配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を持って職員に働いて貰うように管理者と面接を行い意見、要望を聞いて、意識向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に合わせた研修を法人内外で参加をして学ぶ機会を設けている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体で年間を通して研修を実施しサービス向上に向かって取り組みをしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入、不安、困っている事があれば都度確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入、不安、困っている事があれば都度確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス状況を確認しながら他サービス機関の情報も必要に応じて提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除、手作業を行い、食卓にて同じ食事を味わうことで会話やコミュニケーションを多く取っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々情報共有に努めている。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で面会は短時間で飛沫防止シート越しで行っている。遠方のご家族とは電話やSkypeを使用している。受診などでGHIに来た際には面会をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物や地域行事に参加をしていたが今年度は出来ていないが地域に確認し、行事には今後参加していく。散歩は継続して実施している。	新型コロナの感染レベルに合わせ買い物レクリエーションを行い、昼食の食材やおやつ等の買い物に出掛けている。感染警戒レベルが高い時には中止している。そのため、おやつ等の欲しい物は職員が代わって買い出しをしている。合わせて必要物品については家族に届けていただいている。年末には家族に手作り年賀状を発送する予定を立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活中で入居者様同士が話をしてコミュニケーションが図れている。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退居した後も相談や支援、面会をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いをつぶやきで吸い上げ、ご家族には生活歴をお聞きし入居者様の生活の質の向上に努めている。	全利用者が言葉で意思表示の出来る状況となっている。利用者一人ひとりの役割分担を明確にし、ホール内のホワイトボードの1ヶ月の予定表に料理、掃除、作品作り、体操等の個々の役割を書き込み目視出来るよう工夫し、張り合いのある生活に繋げ、自由にやりたいことをして過ごしていただけるようにしている。また、職員が日々気づいた事柄については口頭で伝え、合わせてパソコンの伝言板に記録として残し出勤時と退勤時確認し、利用者の意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートやプロフィール表を活用し生活歴を把握しサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの日課表で一人一人の生活状況を把握しフロアの伝言板で状態も情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族の希望を取り入れた介護計画を作成し状態に変化があった際には見直しをしている。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、家族の窓口、アセスメントを担当している。カンファレンス前に担当職員、ハウスマネージャーによる事前モニタリングを行い、家族から聞いた意向を加味しながらカンファレンスの席上職員の意見を出し合いプラン作成に繋げ、家族については面会時に説明している。入居時は暫定で1ヶ月のプランの作成を行い、様子を見てその後6ヶ月のプラン作成に繋げ、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ポイントケアに日々の入居者様の状態を入力し、ケアプランの評価し見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の事業所が近くにある為ケアの変更時には他職種で評価している。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染症の為地域交流があまりできていないが地域で開催してもらいイベントには参加をしていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な際にはかかりつけ医、協力病院にご家族の希望をお聞きして受診をしている。	入居時に医療機関について確認している。現在、入居前からのかかりつけ医の月1回の往診の方と入居前からのかかりつけ医で受診する方が若干名ずつおり、また、新型コロナ禍ではあるが3ヶ月に1回、家族付き添いで受診する方が三分の二いる。特記事項については受診時にハウスマネージャーより家族に口頭で話している。また、毎週火曜日には24時間対応の訪問看護師の来訪があり健康管理に取り組んでいる。歯科については必要に応じてかかりつけ医に家族がお連れしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護を受けている。入居者様の体調に変化があった際には都度相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、医療機関と連絡を密に取り、本人様の状態把握を行い、面接など動けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に変化があった際に施設、ご家族で話し合いを行い、方針を決めている。また、医療機関に相談し多方面から動けるようにしている。	重度化に対する指針があり利用契約時に説明している。食事がミキサー食等になったり車いす使用の状況になり、重度化に到った時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、ホームとして出来得る限りの支援に当たり、隣接の特別養護老人ホームや老人保健施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で緊急時対応研修を実施し、職員同士連携がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行い、地域の方との訓練を行い連携を図っている。	毎月、利用者全員参加で防災訓練を行い、万が一の災害に備えている。火災想定で玄関先まで移動しての避難訓練を行い、所要時間を測っている。合わせて緊急連絡網の確認、必要物品の確認を行っている。また、年1回秋には隣接の同じ法人が運営する複合施設と合同での防災訓練が行われ、地域の方々と連携を取り、ホームとして近くの神社までの避難誘導訓練を行っている。避難時の必要物品として、軍手、懐中電灯、メガホン等が備えられ、緊急時の食糧については複合施設に3日分備蓄されている。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーチェック表を実施し事業所内で声掛けや対応方法を学んでいる。	職員同士話し合い、利用者を尊重した言葉遣いに気を付け、馴れ合いにならないよう心掛けている。合わせて、利用者の前では他の利用者の話しをしないよう気を付け、特に、トイレ介助については他にわからないよう声掛けをしている。呼び掛けは基本的に苗字に「さん」付けでお呼びしているが、希望で名前でお呼びすることもある。また、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。年2回、人権擁護の研修会を行い、プライバシーに対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望があった際には職員間で検討しご家族に連絡し協力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活パターンを把握し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、着たい服などは選んで頂き、身だしなみや整容をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来ることを職員で把握し役割を持って頂き食事の準備、片付けを依頼している。	全利用者が自力で食事が摂れ常食という状況である。献立は法人の管理栄養士が立てたものを利用者の希望を取り入れ一部アレンジして調理している。もやしの芽取り、調理、盛り付け、後片付け等、利用者一人ひとりの役割分担を決め、張り合いを持って行うようにしている。包丁を使える方が三部の二以上おり職員と共に調理にも参加している。また、金曜日の夕食は利用者の希望献立を行い、「から揚げ」「お刺身」「鰻」等で楽しいひと時を過ごしている。更に、おやつ時に時折「おはぎ」などを手作りし、夏には屋外で「バーベキュー大会」や「スイカ割り」を行い夏の日を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を把握し、好きな物をお聞きし支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。出来ない方には職員が声を掛けて支援している。		

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	フロア会議や申し送り時にアセスメントを行い、排泄パターンの把握を行い、自立支援に努めている。	自立されている方が三分の二以上おり、一部介助の方が若干名という状況である。職員は排尿、排便共にトイレに立った都度排泄記録として残すようにしている。また、排便については夕方職員が利用者一人ひとりに確認するようにしている。排便についてコントロールを行っている方がいるが、「お茶」「味噌汁」「スポーツドリンク」等を中心に一日1,500cc～1,800ccの水分摂取に取り組み排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多くしたり、日中の体操、散歩を行ったり、必要に応じて訪問看護にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後実施をしており、毎日、希望をされる方に関して入浴をして頂いている。	見守りを含め安全確保のため全利用者何らかの介助が必要な状況となっており、入浴は毎日行っており基本的には週2回行っている。希望で毎日入浴されている方もいる。また、入浴時間も本人の希望に合わせているようにしている。入浴拒否の方が若干名いるが、誘い方に工夫をし入浴していただくようにしている。入浴後はスポーツドリンクなどを飲んでいただくようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望に沿って休みたい時には休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診後に内服薬に変更がないか、ご家族に確認し処方箋を職員で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、入居者様の希望をお聞きしてレクリエーションを実施したり、作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染症の為散歩とGH前の掃除を実施をしている。外出の希望があった際にはご家族と出かけている。	基本的には全利用者が自力歩行となっているが、安全確保のため職員が付き添っている。新型コロナ禍が続き外出の自粛状況が続いているが天気の良い日には毎日隣の神社や公園まで散歩に出掛けている。また、今年は諏訪大社の御柱祭の年でもあり、隣接する神社の建御柱の見学に出掛けた。新型コロナ収束後には年間の外出計画を立て花見や紅葉見物に出掛ける予定である。	

グループホームグレイスフル下諏訪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持参している方は数名いるが安心の為ご家族希望にて持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望があった際には対応をしてご家族宛にお便りも毎月郵送をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計を設置しており日時や時間をわかるようにしている。季節の飾りを作成したり入居者様に季節を感じて頂いている。	玄関、ホールの壁、天井までトイレトペーパーの芯を用い製作した季節に合わせた作品が数多く飾られている。作品は地域の文化祭にも出品する予定である。また、掲示されたホワイトボードには利用者一人ひとりの役割分担が書き込まれ、それに従い料理や掃除に参加し張り合いのある生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置したり机の配置を変更して対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を居室に設置したりして環境設定を工夫をしている。	整理整頓が行き届いた居室には大きな収納戸棚が完備され暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、使い慣れた整理棚、テーブル、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や趣味の人形等に囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを把握して出来ることはやって頂いている。支援が必要な方には職員と一緒に実施をしている。		